

「わたしは良い羊飼いです。」(ヨハネによる福音書 10 章 14 節)

「愛される羊たちの平和」

吉川光太郎牧師

イエス・キリストという名前をあなたは聞いたことがあるでしょうか。私たちが親しみを込めて「イエス様」と呼ぶこのお方は、天地を作られた神様の御子、クリスマスにお生まれになった世の救い主です。「聖書」というのは、このお方についての預言や証言が記されたものであると考えていただければいいと思います。お子様が福光青葉幼稚園に入って、はじめてこの名を聞いたという方もいらっしゃるでしょう。そこで気になるのは、この神様はどのようなお方なのか。何をしてくださる方なのかという事であると思います。

イエス様はいろいろな形で自己紹介をしてくださいます。そのうちの一つとして、イエス様はご自分のことを「良い羊飼いです」と言われます。羊飼いですというのは昔のイスラエルではよく知られた職業でしたが、羊飼いですという職業があまり身近にない私達は、「良い羊飼いです」と言われても少しイメージしにくいかもしれません。なので簡単に説明いたします。羊飼いですは現代でいうところの畜産業者ではありません。羊飼いですは自営業ではなく、雇われている存在なのです。羊飼いですは、ご主人が飼っている羊のお世話をする人々のことなんです。羊は羊飼いですの所有物ではありません。ですからご主人に雇われている手前、たとえ悪い羊飼いですであっても、杜撰な管理をすることはできません。食事を与え、水を飲ませるという事はちゃんとするでしょう。そう考えますと、羊飼いですに良いも悪いもないような気がするかもしれません。しかし、問題は羊の身に危険が迫った時です。

いつの間にか羊が 1 匹、群れから離れていなくなっていた。群れの中の 1 匹が狼に襲われようとしている。夜中、強盗が忍び込み羊を連れ去ろうとしている。そういった状況に直面した時、羊飼いですの本性が現れます。悪い羊飼いです、すなわち、あくまで職業として羊を管理しているだけの羊飼いですならば「1 匹いなくなったくらいではご主人は気付くまい。」とか「1 匹に構っていても、残りの多数の羊が違う危険にさらされるかもしれない。」とか「寝ている時間に来られては対策のしようがない」などと言い訳をして、その羊を見捨ててしまうでしょう。彼にとって羊はどれも同じに見えるのです。

しかし、良い羊飼いですは違います。たとえそこに 100 匹の羊がいようと、羊 1 匹 1 匹の名を呼んで愛します(実際にプロの羊飼いですはちゃんと違いが判るんだそうです!)。そして羊たちがただ身体的健康を保つことだけではなく、羊飼�の守りのもと、心から安らいで平和に生きることを望み、そのために自分の身をも犠牲にするのです。眠る間も惜しんで羊たちの成長を見守ります。もし 100 匹の内から 1 匹が群れを離れ、暗い森に入ってしまったならば、失われたその 1 匹をどこまでも捜し、狼や強盗に傷つけられ、死にそうになっても羊を助けてくれる。イエス様はご自分のことを「良い羊飼�」であると言われます。神様の子であるあなたのことを、命を懸けて愛し、守ってくださるのです。福光青葉幼稚園はイエス様の幼稚園です。この方の愛による保育が行われています。たとえ闇のような世の中であつたとしても、そこに希望の光が注がれ、皆で守られている平和を受け取ることができるのです。





保育理念	受ける愛 与える愛
	－愛されていることを知り・愛する者となるために－

「ひとりひとりの名を呼んで」

可愛いチューリップの花が咲き、暖かい春が訪れてきました。この度は、ご入園、ご進級おめでとうございます。2021年度の保育が始まります。今年度も教職員一同「一人ひとりを大切にする」保育に専念して参りたいと思います。どうぞ宜しくお願い致します。

当園の保育理念は「受ける愛 与える愛」～愛されていることを知り 愛する者となるために～です。この意味は、「ありのままの自分を受け入れてもらえた人は、やがて他者を受け入れ他者を愛する人になれる」ということです。乳幼児期は、子どもを見守る大人たちや保育者が優しく厳しい「ことば」で関わるのが何よりも大切と思っております。

「ことば」には、声の中に気持ち《特に愛情》・表情・まなざし・ぬくもり・声のトーンやリズム・スキンシップ等があり、その中で「わたしは大切にされている、愛されている」「安心して大丈夫」と受け止めてもらえるように、こどもたちに対し、愛情ある行為と言葉をもって笑顔で保育に当たりたいと心新たにしております。

入園当初は、誰でも自己中心的です。自分が遊びたいのに、我慢して友だちに譲ることなどできません。もっと遊びたいのに「おしまい」と言われてもずーっと遊んでいたいのです。順番などお構いなしに、誰よりも一番になりたいのです。それが周りの大人や友だちに、優しくしてもらったり、教えてもらったり、大切にされたりしていくうちに、心が育ち、我慢したり、約束が守れるようになっていたり、順番を待つこともできるようになっていくのです。お家の皆様には、初めての社会にお子様を送り出され不安がおありのことと思いますが、喧嘩も、登園渋りも、怪我也、全てが社会に出るための勉強の時、経験の時と捉え、お子さんを送りだして頂けたら幸いです。乳幼児期は、人間の生涯の基礎が形成される時期で、この時期に培われたものが生涯の生き方の基盤となるといわれています。この時期に、親や保育者のあたたかな愛ある養護を受けることによって、信頼感が芽生え、安定します。このような安定感は、集団生活での友だちや周囲の大人との人間関係にも影響します。人に愛され受け入れられることによって、互いに愛し合う交わりの経験をし、やがて、見えない神の恵みを感じるようになっていくのだと思われまます。

讚美歌「一人ひとりの名を呼んで、愛して下さるイエス様、どんなに小さな私でも覚えて下さるイエス様。一人ひとりを愛されて、嬉しい時には喜びを、悲しい時には慰めを与えて下さるイエス様」この歌詞に込められている「愛」ある保育者でありたいと願っております。そして、幼稚園が大好きな子どもたちになって欲しいと願っております。